

第1回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

会議結果

■日時：平成27年4月28日（火） 14：00～16：00

■場所：ニューウェルシティ出雲所 2階 牡丹

■議事内容

1. 開 会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. これまでの取組状況について
5. 設立趣旨（案）、規約（案）について
6. 会長の選出
7. 議事
 - （1）取組の背景について
 - （2）指標種の選定について
 - （3）検討体制および今後のスケジュールについて
8. 閉会

■配布資料

1. 議 事 次 第
2. 出席者名簿・配席表
3. 設立趣旨（案）
4. 規約（案）
5. 資料1：取組の背景について
6. 資料2：指標種の選定について
7. 資料3：検討体制および今後のスケジュールについて
8. 参考資料1：「生息環境づくり部会準備会」の開催報告
9. 参考資料2：「出雲の地域づくりフォーラム」の開催報告
10. 参考資料3：日本における生態系ネットワーク位置付け等

■検討協議会風景



■出席委員

構成		氏名	団体名等	
専門家	生物多様性	涌井 史郎	東京都市大学	教授
	河川	梶川 勇樹	鳥取大学	助教
	鳥類	佐藤 仁志	(公財)日本野鳥の会	理事長
	水生動物	林 成多	(公財)ホシザキグリーン財団	主任研究員
	植物	井上 雅仁	島根県立三瓶自然館サヒメル	課長代理
関係団体		糸原 直彦	出雲商工会議所	専務理事
		岡田 達文	島根県農業協同組合出雲地区本部	副本部長
		小野 篤彦	出雲観光協会	事務局長
		内村 哲也	(一社)出雲青年会議所	副理事長
		片寄 巖	神戸川漁業協同組合	代表理事組合長
		原田 孟	NPO法人いずも朱鷺21	理事長
		青木 広幸	NPO法人国際交流フラーワ-21	理事長

関係行政機関	野口 武人	出雲市	副市長
	板倉 優		都市建設部長
	舩田 直樹	国土交通省出雲河川事務所	事務所長
	後藤 尊宜	島根県 地域振興部	しまね暮らし推進課 中山間地域支援G
	小林 長利	島根県 環境生活部	自然環境課 自然保護G
	森山 貢		環境政策課 宍道湖・中海対策推進室
	曾田 潔志	島根県 農林水産部	農村整備課
	嘉本 美智子		森林整備課 鳥獣対策室
	深田 明	島根県 土木部	河川課神戸川対策スタッフ
事務局	出雲市		
	国土交通省(出雲河川事務所)		

オブザーバー

関係行政機関	澤志 泰正	環境省 中国四国地方環境事務所	野生生物課 課長補佐
	平井 和登		野生生物課 課長補佐

■検討協議会における主な意見等

あいさつ

事務局 この斐伊川水系は、斐伊川本川、そして神戸川、宍道湖、大橋川を通じて中海、境水道まで。特に出雲地域にある宍道湖・中海はラムサール登録から今年が10年目という節目を迎えている。これに先立ち、斐伊川水系の生態系ネットワークに向けた取組として、これまで勉強会やフォーラムの開催といった取組を踏まえ、本日の流域づくりの検討協議会の立ち上げ準備を進めてきた。この取組は、河川管理者だけでも、行政だけでもできず、この流域に携わる皆様と共に検討し、協議し、進めていくものであると思っている。

設立趣旨（案）、規約（案）について

委員 活動対象エリアを出雲平野だけでなく、宍道湖・中海まで範囲を広げて考えると、趣旨により合致した活動として広がっていくと思う。中海・宍道湖の近辺の5市の市長会があるので、こちらのネットワークも活用していただき協力できるかと思う。

事務局 枠組みを見直して発展的にシフトさせていけたらと思う。規約（案）と委員名簿（案）はメンバーの追加等の必要な修正を行い、次回の協議会にて再度委員にはかりたい。

委員 特に水鳥等に力を入れている神西湖がメンバーにいない。出雲市においてもトキ等、環境面に力を入れており、一番水鳥等が多いのも神西湖である。神西湖における取組も併せてご検討いただければと思う。

会長の選出

事務局 規約においては、協議会の会長は事務局の推薦によって定めることとしているため、生態系ネットワークに造詣が深い〇〇をお願いしたい。（異議なし）

議事

・指標種の選定について

委員 5種の鳥類を対象にして実現可能なのか。

事務局 現状の飛来数やポテンシャル等を考慮し、取組プロセスをⅠ～Ⅲに分け、順番を考えながら全てを対象として考えている。

委員 5種の指標種は、湿地性の水鳥類の中でも大型のもので、そのほとんどは餌場を水田に求めている鳥。アンブレラ種として、同じようにやれば同じように守れる、また地域の特性が色々つくられ、産業振興にも効果があるかと思う。

委員 取組プロセスの生息環境の整備や飛来について、具体のスケジュールはあるか。

事務局 トキは具体的なスケジュールを示すのは難しいため、これからの議論に期待したい。

会長 斐伊川水系は大陸系の鳥が飛んできて交配したり、新しい血・形質の状況をつくる上で、戦略的にも非常に重要な拠点である。また、餌場を整えるということは、地元の漁業や農業など一次産業と密接不可分な関係である。実はこの議論の本質は、鳥による地域づくりである。

委員 指標種でないウミネコが田んぼに来ているが、こういった鳥たちは排除されるのか。

委員 排除ではなく、アンブレラ種として大型水鳥類を守っていけば、その下にいるたくさんの鳥たちが集まってくるということ。ウミネコも潜在的な地域資源であり、田んぼにいるウミネコを出雲では当たり前に見ることができる。観光PRの中にも組み込むことは良いかと思う。

会長 一般的に生物種は棲み分けている。行動時間を分けたタイムシェアと、体の特質によって生息場所を選別するスペースシェア。決して他を排除する関係にはなっていない。

委員 ハクチョウやマガンがいることは普通のことであるが、それが貴重な資源としてここで採れる農産物がブランドになり、トキ米のようになれば嬉しいことである。少しでも協力ができればと思っている。

会長 水鳥がたくさん来ている田んぼの米はうまい、など必ずしも TPP で値段を下げた競争ではなく、これからの消費者の感性や価値というものにどう応えていくか、地域のブランドをどうつくっていくかを検討し、一次産業、さらには六次産業への議論ができれば良いと思っている。

委員 今後の流域づくりにつなげるためには、次の世代である若い人たちに伝え、意見を取り入れていくことが大切であると思う。

事務局 流域づくりや地域づくりを目指すということは、人づくりにもつながる。

・検討体制および今後のスケジュールについて

委員 規約にある委員について、行政機関の位置付けについて教えてほしい。

事務局 規約の委員名簿にある通り、関係行政機関は部局としての参加をお願いしたい。

会長 生息環境づくり部会では科学的評価を行うことと、それに向けて野鳥の会や NPO・NGO の方たちの活動実績をきちっと報告すること、そしてどういう運動の広がりや相乗効果、阻害要因があるか、まとめると良いと思う。地域づくり部会では、インバウンドを含めて、最近の外国人は観光名所を巡るのではなく、日本人の当たり前の暮らしを覗いてみたいといった要請がある。漁業、農業、観光の方、青年会議所や商工会の方もいるので、ひとつの新しい地域おこしのための内発的な、将来に向かっての構造化を含めながらしっかりとした幅広い議論を進めることをお願いしたい。次の協議会の時までにある程度新しい枠組みを示していただき、皆様が前向きに取り組んでいただけるような議論の題材を示していただきたい。

閉会

事務局 次回の第 2 回の推進協議会は、早々に中海・宍道湖・大山圏域への展開について、関係機関と調整の上、お盆過ぎ以降を目処に調整したいと思う。

以上